

遊園地

のあるまち



ひらかたパーク



「ひらパー」の愛称で親しまれる枚方の顔。100年以上の歴史を持つ遊園地で年間100万人以上が訪れます。駅からすぐなので家族連れで気軽に行けるのが魅力です。夏のプールに冬のスケートなど楽しく過ごす親子連れが一年を通して見られます。



くまさん「いとこと行ったひらかたパークの菊の前でガチガチに緊張して記念撮影。ハイソックスがずれ落ちないようにバンドでとめているのが懐かしいです」(昭和36年)



太田潤さん「ひらかたパークでドラゴンボールの催しをやっていました。秋の菊人形、夏のプール、冬のスケート、子どもたちの大好きな場所です」(昭和62年5月)



ちずさん「3歳の時に母と。ひらパーでの写真は他にもたくさんありましたが、後ろのモンキーランドが懐かしかったのでこれを選びました」(昭和45年8月)



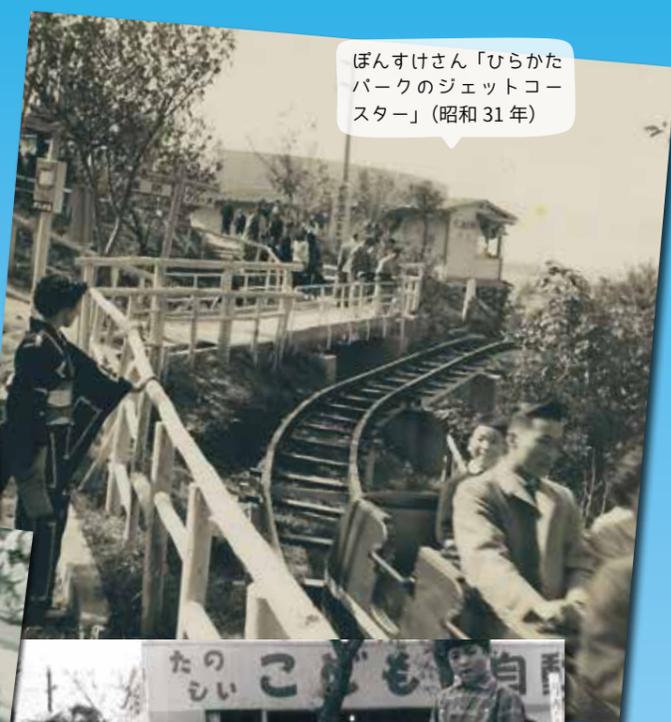
FOXIPENTAさん「今はなくなってしまうが、ひらかたパークの一大イベント『ひらかた大菊人形』で一枚。連日多くの人々が菊人形を見に来ていました。1歳10カ月の私を抱っこしてくれる母の服装に70年代ファッションの雰囲気を感じることができました。母の話では、この年のテーマは『古都絵巻』で、まだ赤ちゃんの私が、艶やかに彩られた菊人形をとて興味深く見入っていたそうです」(昭和45年秋)



あっこさん「お嫁入り前のおばとツーショット。笑顔が足りない私。きっとアニメのキャラクターの大きさに驚いているのではないのでしょうか」(昭和45年春)



KAZUSUさん「ひらかたパークの池の前で父の肩車」(昭和33年4月)



ぼんすけさん「ひらかたパークのジェットコースター」(昭和31年)



ちよんさん「当時、子どもたちの間で流行っていた『おかあさんといっしょ』の体操『お手々をぶらぶらぶらぶら』をしているところです」(昭和43年)



明円勝さん「6歳頃。子ども自動車を運転して自慢です」(昭和37年秋)

応募枚数が一番多かったのは、やっぱり「ひらかたパーク」。菊人形などが行われたイベントホール前は定番の記念撮影スポットでした。アトラクションも時代によって移り変わりますが主役はやっぱり子どもたち。昔も今も、市民にとって一番の思い出の場所なんですね。

枚方ゆかりの人



タージンさん

「ロケの神様」の異名を持つマルチタレント。アマチュア時代からテレビ・ラジオに出演し、読売テレビ「どんぶり5656」でデビュー。関西を中心にさまざまな番組でのリポーターや、漫談家として天満天神繁昌亭への出演など幅広く活躍している。

もう枚方を「マイカタ」とは呼ばせない！

京阪沿線育ちの私にとって枚方はひらかたパークをはじめ、大塚身近な街。大阪市立高校へ通うときは、京阪電車が一番傾く光善寺駅を利用し、枚方公園・枚方市・御殿山・牧野・樟葉には青春を一緒に過ごした友の顔とセピア色の思い出がある。まさに故郷であり、もう身内感覚である。京都へ行くときは阪急でなく必ず、京阪に乗る。車窓からの景色に懐かしさとトキメキがあるからだ。古典落語「三十石夢乃通路」で「くらわんか舟」の登場時には誇りさえ感じる。歴史・文化ある枚方も市制70年。

もう枚方を「マイカタ」とは呼ばせない！もう私タージンを「たかじん」と呼ばせない！ともにますますアピールしてまいります！



5歳頃、島根県の親戚たちとひらかたパークで(中央)。



18歳の頃。大阪市立高校では落語研究会に。キャンデイス伊藤蘭の「蘭」と、呂宋助左衛門の「助」をとり蘭助(昭和55年頃)。